

# 「恋愛禁止」規定から見たアイドルのジェンダーロール

小泉亜美  
HS30-0047B

## 目次

- 1 はじめに
  - 2 アイドルに対する「疑似恋愛」という視線
    - 2.1 社会に規定される「恋愛」
    - 2.2 「ロマンティック・ラブ・イデオロギー」という物差し
    - 2.3 「ロマンティック・ラブ・イデオロギー」の変化
    - 2.4 リスクを避けようとする現代の恋愛観
    - 2.5 アイドルへの疑似恋愛とリスクを避けようとする現代の恋愛観
  - 3 アイドルに対する巫女的な視線
    - 3.1 柳田による巫女の分類
    - 3.2 「口寄せの巫女」はなぜ女性なのか
    - 3.3 未婚を要件とする「神社の巫女」
    - 3.4 アイドルにおける「巫女性」とは
  - 4 インタビュー調査
    - 4.1 インタビュー調査の概要
    - 4.2 調査結果の分析
    - 4.3 疑似恋愛対象としてのアイドル
    - 4.4 「巫女性」を理由とする女性アイドルのファン
    - 4.5 共通する「仕事への悪影響」とは
    - 4.6 ファンが求めるアイドル像のズレ
  - 5 おわりに
- [注]  
[参考文献・ウェブサイト]

## 1 はじめに

なぜアイドルは「恋愛禁止」を求められるのか。

アイドルが恋愛禁止を求められる理由として、先行研究では、ファンがアイドルを疑似恋愛の対象としているためという見解と、アイドルが

巫女的な存在であるためという見解がある（香月 2014；小林ほか 2012；西条・木内・植田 2016）。

しかし私は「巫女性」に関し、女性アイドルのみに向けられる視線だと感じた。そして、ファンがアイドルに対し求めるものに、アイドルの性別による違いがあるのか疑問を抱いた。

そこで本研究では、アイドルに対する「恋愛禁止」規定に注目し、アイドルのファンを対象に、半構造化インタビューを行い、その結果をもとに、KH Coder を用いた計量テキスト分析をすることで、ファンがアイドルに対して何を求めているかを明らかにし、さらに、アイドルのジェンダーロール（性役割）がどのように形成されているか明らかにする。

## 2 アイドルに対する「疑似恋愛」という視線

アイドルへの恋愛感情が「疑似恋愛」とみなされるのは、それが近代以降の社会が「本物」とみなす「ロマンティック・ラブ・イデオロギー」（恋愛・結婚・性が三位一体になった価値観）に基づいた恋愛（山田 1989）でないからである。

一方で、「本物」でないからこそ、アイドルへの恋愛感情は、傷つくことなく楽しめる恋愛を好む現代の若者（谷本 2008）にとって、むしろ都合の良い魅力的なものといえるのである。

## 3 アイドルに対する巫女的な視線

アイドルの「巫女性」と恋愛禁止との関連性を歴史的に紐解くため、柳田国男らの巫女の分類（川村 1997；吉田 2007）に基づき「神社の巫女」と「口寄せの巫女」の特徴を検討する。

「口寄せの巫女」は、恋愛や結婚を禁止され

ている存在とは言えない。

しかし、「神社の巫女」は未婚の女性や子どものみがなれるものである。このイメージが今日にも引き継がれ、巫女ないしは「巫女性」を持つものに対して、恋愛禁止な存在であるという認識が作られたと考えられる。

アイドルが「巫女性」を理由に恋愛禁止を求められるのは、アイドルに「巫女性」を感じたファンが、歴史的に定着した〈巫女=恋愛禁止〉イメージをアイドルに結びつけるためだと考察する。

#### 4 インタビュー調査

アイドルのファンである 20 代の男女 7 人を対象に半構造化インタビューを実施し、「アイドルに恋愛禁止を課す理由」と「アイドルに求めている要素」の 2 つに関連した質問を行った。

そして、インタビュー内容を KH Coder を用いて、アイドルの性別で 2 つに分けて分析した。

分析の結果、「疑似恋愛」と「巫女性」を理由に、アイドルに対して恋愛禁止を課すファンの存在を確認できた。

そして、「巫女性」を理由にアイドルに恋愛禁止を課すのは、主に女性アイドルのファンに見られる。この点では、アイドルに対する恋愛禁止の理由として、性別による違いはあるといえることが分かった。

さらに、アイドルに求めている要素については、男性アイドルには「自立」が、女性アイドルには「自立していない」ことが求められ、大きく異なることが分かった。〈自立していない女性アイドル⇔理想を押し付けるファン〉、〈自立している男性アイドル⇔その姿を応援しつて行くファン〉というアイドルのジェンダーロールが定着しているといえる。

しかし、こうしたジェンダーロールの形成にはアイドルの性別だけでなく、ファンの性別も影響している。そのため、アイドルのジェンダーロールとは、アイドルの性別に応じて社会から期待される行為のパターンだけではなく、〈分

類〉するファンと〈分類〉されるアイドルとの間の相互作用を通じて形成されるものだといえる。そして、このジェンダーロールは、一般的もしくは理想的な「アイドル像」という名の下で正当化され続けているのである。

#### 5 おわりに

〈分類〉するファンと〈分類〉されるアイドルとの間の相互作用を、「ループ効果」(イアン・ハッキング)の概念(加藤 2017)を用いて捉え直す。そうすれば、アイドルに「疑似恋愛」や「巫女性」を求めているファンであっても、「仕事への悪影響が生じる」などの理由で、アイドルに恋愛禁止を求めることが理解できる。つまり、「ループ効果」によって形成され維持される「アイドル像」は、アイドルの恋愛を「アイドル像」からの逸脱とファンに認識させ、アイドルの恋愛を禁止するよう促すのである。

#### 参考文献・ウェブサイト(一部抜粋)

- 香月孝史, 2014, 『アイドル』の読み方——混乱する「語り」を問う』青弓社。
- 加藤秀一, 2017, 『はじめてのジェンダー論』有斐閣。
- 川村邦光, 1997, 『憑依の視座 巫女の民俗学Ⅱ』青弓社。
- 小林よしのり・中森明夫・宇野常寛・濱野智史, 2012, 『AKB48 白熱論争』幻冬舎。
- 西条昇・木内英太・植田康孝, 2016, 「アイドルが生息する『現実空間』と『仮想空間』の二重構造——『キャラクター』と『偶像』の合致と乖離」『江戸川大学紀要』26: 199-258. 谷本菜穂, 2008, 『恋愛の社会学——「遊び」とロマンティック・ラブの変容』青弓社。
- 山田昌弘, 1989, 「『恋愛社会学』序説——恋愛の社会学的分析の可能性」『年報社会学論集』(2): 95-106.
- 吉田邦博, 2007, 「神道の女子神官」学習研究社編, 『姫神の本』学習研究社, 160-173.